

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	こどもリハビリテーション支援専攻科	科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	小児発達支援学	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) <small>時間(単位)</small>
対 象 学 年	こどもリハビリテーション支援専攻科	学 期	前期	教室名	1003教室
担 当 教 員	廣瀬 友哉				
実務経験と その関連資格	作業療法士・公認心理師。 社会福祉事業団で小児発達領域のセラピストとして勤務後、児童発達支援・放課後等デイサービスの立ち上げに携わり、1000人以上の子どもと保護者を支援。保育所等訪問、研究、講師活動を行いながら、小児地域リハビリテーションを実践。 公認心理師資格取得後は、不登校児や保護者へのコーチングも展開。現在はフリーランスとして、児童発達支援・放課後等デイサービスのコンサルティング、講師、京都府の巡回相談員など、多様なフィールドで活動中。医療や福祉の枠にとられない作業療法士のあり方を探求している。				
《授業科目における学習内容》					
臨床において、医療、福祉、教育の連携の必要性は以前から言われている。障がい像がより複雑化する中、連携の必要性は必須とも言える時代と言える。連携の土台である他職種を知ること、当事者、保護者の話を聴くことでヒントを得る。					
《成績評価の方法と基準》					
各回の感想文の提出内容					
《使用教材(教科書)及び参考図書》					
特になし					
《授業外における学習方法》					
《履修に当たっての留意点》					
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	講師と生徒の自己紹介と1年の流れ			
	各コマにおける授業予定	フリー			
第2回	授業を通じての到達目標	連携すること、支援・コミュニケーションとは。			
	各コマにおける授業予定	講義とワークショップ			
第3回	授業を通じての到達目標	他職種を知り、連携のヒントにする。			
	各コマにおける授業予定	【ゲスト:保育士】			
第4回	授業を通じての到達目標	他職種を知り、連携のヒントにする。			
	各コマにおける授業予定	【ゲスト:小学校教員】			
第5回	授業を通じての到達目標	他職種を知り、連携のヒントにする。			
	各コマにおける授業予定	【ゲスト:支援学校コーディネーター】			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	他職種を知り、連携のヒントにする。		
	各コマにおける授業予定	【ゲスト：公認・臨床心理士】		
第7回	授業を通じての到達目標	他職種を知り、連携のヒントにする。		
	各コマにおける授業予定	【ゲスト：相談支援専門員】		
第8回	授業を通じての到達目標	保護者の心理、想いを知り、支援のヒントにする。		
	各コマにおける授業予定	【ゲスト：発達障がい児の保護者】		
第9回	授業を通じての到達目標	他職種を知り、連携のヒントにする。		
	各コマにおける授業予定	【ゲスト：巡回相談員】		
第10回	授業を通じての到達目標	他職種を知り、連携のヒントにする。		
	各コマにおける授業予定	【ゲスト：児童発達支援・放課後等デイサービスOT】		
第11回	授業を通じての到達目標	他職種を知り、連携のヒントにする。		
	各コマにおける授業予定	【ゲスト：児童発達支援・放課後等デイサービスPT】		
第12回	授業を通じての到達目標	他職種を知り、連携のヒントにする。		
	各コマにおける授業予定	【ゲスト：児童発達支援・放課後等デイサービスST】		
第13回	授業を通じての到達目標	他職種を知り、連携のヒントにする。		
	各コマにおける授業予定	【ゲスト：児童発達支援・放課後等デイサービスオプトメトリスト】		
第14回	授業を通じての到達目標	他職種を知り、連携のヒントにする。		
	各コマにおける授業予定	【ゲスト：自発・放デイ経営者】		
第15回	授業を通じての到達目標	これまでのまとめを行い、後期の授業につなげる。		
	各コマにおける授業予定	まとめ		